第150期　中間報告書

2010年4月1日～2010年9月30日





OAK CAPITAL

Oakキャピタル株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より温かいご支援と格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第150期中間報告書をお届けするにあたり、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

当第２四半期連結累計期間における経済環境は、景気回復の兆しが見え株価も上昇傾向にあった前期から一転し、国内株式市場の下落基調が続き、厳しい状況で推移いたしました。政府の景気対策等により、一部の業種において改善傾向が見られたものの、急激に円高が進行するとともに、輸出企業を中心とした企業収益への悪化懸念が広がり、景気の先行き不安を反映する形で、厳しい状況が続いてまいりました。

このような環境の中、当社は、インベストメントバンキング事業において、本年度より開始した、上場企業に対する投資を展開いたしました。本投資の目的は新興市場に上場する企業あるいは中堅上場企業に対するエクイティ・ファイナンスの引受及び投資先の成長戦略の支援を行うことであります。

しかしながら、国内株式市場の中でも特に新興市場が４月までの上昇傾向をピークに５月のギリシャショック以降、株価が下落傾向を強めたことから、投資判断を慎重に行い新規投資を手控えました。また、株式市場の低迷により投資回収も限定的なものにとどまっております。

今後の展開につきましては、厳しい経済環境及び株式市場の中にあっても、当社の投資方針に変更はなく、引き続き潜在成長力のある、新興市場に上場する企業や中堅上場企業に対しファイナンスの包括提案を行い、成長戦略及び財務戦略遂行の支援につながる後押しを積極的に行ってまいります。

引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年12月

代表取締役会長兼CEO　竹井博康

事業領域

インベストメントバンキング事業を柱に、経営資源を有効に活用する領域に展開しております。

インベストメントバンキング事業

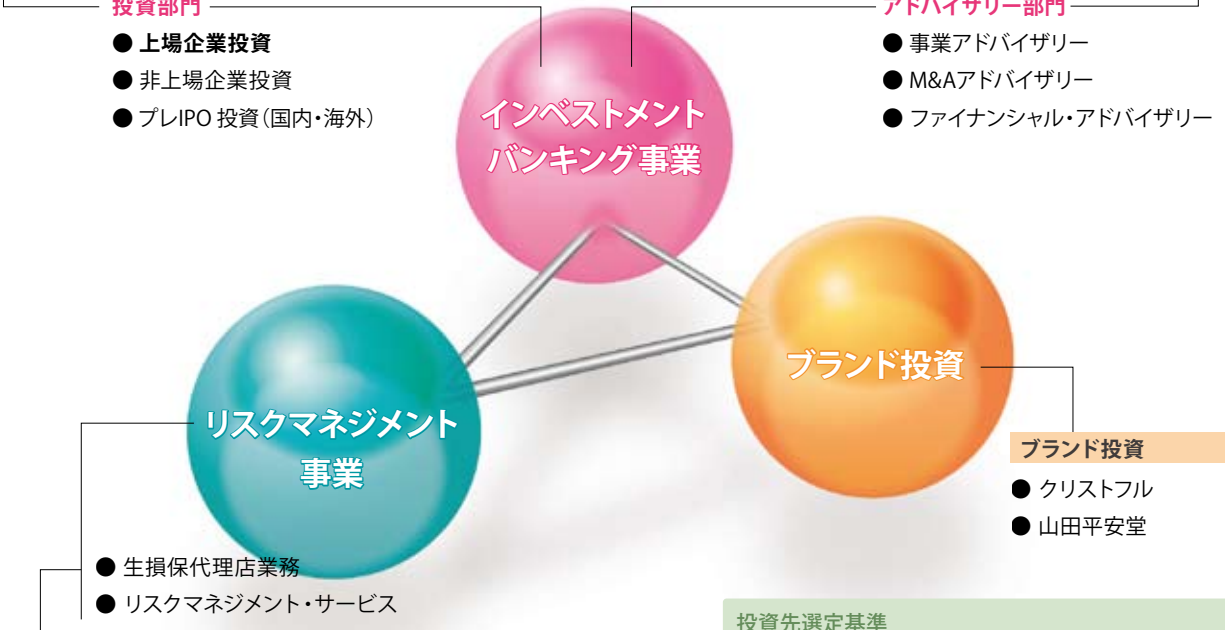
投資部門

●小型上場企業
時価総額100億円以下の上場企業に対するファイナンスの引受と成長支援

●中型上場企業
時価総額100億～500億円の上場企業に対する共同投資やファイナンスの支援

アドバイザリー部門

クライアント企業に対する事業計画、資本政策、M&A等の成長戦略及びIRに関する助言



リスクマネジメント事業

投資事業で培ったネットワークやノウハウを活用し、事業展開しています。

投資先選定基準

下記のポイントを考慮し、特定のセクターや業種にこだわらず、個別案件の内容を精査検討して投資判断を行います。

強いブランド力	大きなマーケットシェア	高い技術力

中期経営計画（2010 ～ 2012 年度）

世界金融危機以降、市場内外の様々な要因により、中堅企業の多くにとっては資金調達が困難な状況となっております。このような環境において、インベストメントバンキング事業を営む当社に求められる役割は、これらの企業に対し、活力を生み出すためのリソースを提供することです。

当計画では、投資部門とアドバイザリー部門の経営リソースとノウハウを活用し、新興市場ならびに中小型の上場企業に対するファイナンスの引受とともに、バリューアップ戦略の策定や営業支援など、トータルアドバイザー/コーディネーターとして投資先の事業展開を支援することを骨子としております。

中期経営計画のテーマ

①成長事業支援投資

- 環境技術分野
- 情報通信分野
- メディカル分野
- サービス分野
- その他

②海外上場支援投資

アジアにおいて既に事業展開を行う企業及び今後アジア市場に進出する企業に対し、香港、上海、シンガポール等での株式上場を支援

③事業再構築支援投資

- **国内再編**
  事業の選択と集中により国内での再成長を展望できる企業を中長期に支援。事業戦略から資本政策まで、トータルアドバイザーとしての支援及び投資
- **海外展開**
  アジアをはじめとする新興国市場での事業展開により再成長が展望できる事業及び技術を有する企業を、中長期にわたり事業戦略から資本政策まで、トータルアドバイザーとして支援及び投資

④再生投資

中核事業の成長力を有しながらも資本あるいは株式の市場性等に関する課題（債務超過解消、株式流動性向上、株式時価総額拡大等）を有する企業に対し、資金調達等の機会を提供

中期経営計画に基づく投資事例

セーラー万年筆株式会社

http://www.sailor.co.jp/

1911 年の創業以来、わが国を代表する筆記具メーカーとしての地位を揺るぎないものにしてきたセーラー万年筆。現在では、医療分野向けをはじめとする産業用ロボットも製造し、新興国の需要も拡大。海外展開による受注も増加傾向にあります。世界が認めるブランド力を背景に、従来の文具産業の枠を超えた製品の開発・製造・販売等での、大幅な事業改革を支援してまいります。

株式会社フライトシステムコンサルティング

http://www.flight.co.jp/

成長著しいスマートフォン向けアプリケーションやプラットフォームサービスの開発に、いち早く取り組んできたフライトシステムコンサルティング。
なかでも、iPhone 向けサービス事業を展開するうえで、極めて高い協業効果が見込めるソフトバンクとの資本提携発表は、広く関心を集め、市場でも大きな反響を呼びました。新市場創出の契機に多くの期待がかかります。

シコー株式会社

http://www.shicoh.com/

主力製品である AFL* は、スマートフォン市場の世界的拡大により、現在、世界トップシェア。電子部品の月間生産量も 1,000 万個を超えるなど、業績も拡大中です。「超小型精密モーターの主力メーカー」としてますます成長が期待される同社を強力にバックアップしてまいります。

* AFL（オートフォーカス・リニアモーター）は、スマートフォンに搭載されるオートフォーカス・カメラ用の超小型精密モーターです。

ブランド企業への支援投資

クリストフルジャパン株式会社

http://www.christofle.com

シルバーウェア最高級ブランドのフランス老舗メーカー

Christofle

クリストフル社は、19世紀より世界的に知られてきたシルバーウェアの老舗メーカーです。ルイ・フィリップやナポレオン3世の宮廷御用達業者をつとめ、オペラ座の屋上装飾を施す等、多くの偉業を残してきました。銀製品の歴史を塗り替え続けてきた、優良ブランドの圧倒的な存在感を放つクリストフル社製の銀製品は、現在も世界のトップクラスのカトラリー（食器類）であり、銀食器の代名詞として尊重されています。エリゼ宮や、パリの五つ星ホテル「ホテル・リッツ・パリ」をはじめとする国内外の最高級ホテルや一流レストラン、豪華客船などで使用されています。



株式会社 山田平安堂

http://www.heiando.com

宮内庁御用達の老舗、高級漆器販売の最大手

宮内庁御用達 漆器 山田平安堂 YAMADA HEIANDO

宮内庁御用達の老舗として広く知られる漆器専門店です。代官山本店や成田空港店など、直営部門を強化するとともに、国内流通部門の大胆な改革、欧州ブランド「ショパール」とのコラボレーション、ネット販売の拡大などにも取り組み、また、調達面では産地との直接取引を含む垂直統合や、新規商材の開発を進めるなど、業界トップの地位に安住することなく、常に自己革新を図っております。ライフスタイルの変化にともない、わが国の伝統産業が衰退傾向にあるなか、同社では、「伝統産業の永続的な発展に貢献する」ことを社是に掲げ、常に新しい価値を提供し続けています。



投資実績　2010年12月現在

バイオセンサーズ・インターナショナル ［シンガポール証券取引所（SGX）メインボード］ **米国** 心臓病治療に使用されるステント等の医療器具の開発及び製造・販売	**東京リスマチック** ［JASDAQ 7861］ 印刷・3D・デジタル画像映像の制作	**ケー・レーザー・チャイナ** **中国** 中国でのホログラム事業の展開
ケー・レーザー・テクノロジー ［台湾証券取引所 2461］ **台湾** ホログラム・フィルム、セキュリティ関連商品等の製造・販売	**オプトロム** ［名証セントレックス 7824］ DVD、省エネルギータイプの次世代型蛍光灯の開発、販売	**日本コーバン** ホログラムフィルム、レンチキュラー製品の販売、舞台照明機等の販売
京写 ［JASDAQ 6837］ プリント配線基板の製造・販売	**フライトシステムコンサルティング** ［東証マザーズ 3753］ iPhone 向けアプリケーションの開発等	**Askair Technologies AG** **スイス** プラズマ技術開発
アパマンショップ HD ［大証ヘラクレス 8889］ 賃貸斡旋・管理、投資不動産業務等	**KFE JAPAN** ［名証セントレックス 3061］ 電子部品・環境関連商品の企画開発	**ダイフレックス** 防水技術・ウレタン防水建材のトップメーカー
ECI ［名証セントレックス 4567］ 東京大学発のがん治療薬の創薬開発	**セーラー万年筆** ［東証2部 7992］ 産業用ロボットも手掛ける、日本屈指の文具メーカー	**ジー・ネットワークス** ［東証2部 7474］ オリエンタルフーズのトータルサービス
ワールド・ロジ ［大証ヘラクレス 9378］ 物流一括受託、物流コンサルタントの納品代行	**シコー** ［東証マザーズ 6667］ 小型モーターの開発・製造	**キャドセンター** CG 映像の技術開発とコンテンツ制作

キュービーネット

ヘアカット専門店チェーンの最大手

東京衡機製造所
（現テークスグループ）
［東証 2 部 7719］

試験・計測機器の開発・設計・製造

ユニオン

建築環境金属製品の製造・販売

モンタボー
（現スイートスタイル）

高級ベーカリーチェーン

朝日インテック
［東証・名証 2 部、JASDAQ 7747］

医療機器の開発・製造・販売
極細ステンレスワイヤーロープ及び端末加工品等の開発・製造・販売

ADIRON

オリジナル・インポートなどのブランドバッグを企画・販売

常楽酒造

本格焼酎（球磨焼酎）と各種リキュール酒の製造・販売

ICS ガーランド
米国

米国トップクラスの技術を持つ建築用床材メーカー

恒和化学工業

国内トップクラスの外壁用水性塗料メーカー

五輪パッキング

家電製品、ハイテク製品等の防塵、緩衝、絶縁用など、各種パッキングの製造・販売

共冷

鮮魚及び冷凍魚の販売、自社ブランドの水産加工品の専門商社

ジー・コミュニケーション
G.communication

多業態の直営及びフランチャイズ展開

三光ソフラン HD

注文建築、分譲住宅販売、資産運用コンサルティング

マルキン忠勇
（現ジャパン・フード＆リカー・アライアンス）
［大証 2 部 2538］

調味料（醤油、だし）、アルコール類、健康飲料などを扱う食品メーカー

アルデプロ
［東証マザーズ 8925］

不動産業界のイノベーター

Oak キャピタル 1 号ファンド
出資者：りそな銀行・みずほ証券

業績回復、成長鈍化からの脱却、事業再編・事業再構築、事業継承、その他企業価値増大を図る企業を対象にした投資ファンド。Oak キャピタル及び LP が持つ顧客企業のネットワークから、そのニーズに応えるバイアウトを行い、事業戦略立案・実行、経営人材の確保、取引先紹介など、状況に合わせた様々なバリューアップを実施する

Pacifica ファンド　米国

IT 企業や材料化学企業に特化したシリコンバレーの投資ファンド。Oak キャピタルは Limited Partner として参加

BSL インシュアランス

総合的なリスクマネジメントサービスを展開

・EXIT 完了後のものを含む過去から現在までの主な投資先（社名等は投資実行当時のもの）を掲載しております。
・ファンド等を経由の間接保有のものを含みます。

連結財務諸表〈要旨〉

連結貸借対照表 2010.9.30

（単位：百万円）

科　目	当中間期	前期
資産の部		
流動資産	**3,257**	**3,319**
現金及び預金	642	855
受取手形及び売掛金	191	143
営業投資有価証券	1,794	1,787
商品及び製品	177	188
1 年内処分予定の不動産	313	313
その他	142	35
貸倒引当金	△ 4	△ 4
固定資産	**598**	**602**
有形固定資産	69	71
無形固定資産	7	9
投資その他の資産	521	521
繰延資産	9	13
資産合計	**3,865**	**3,936**

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

◎連結財政状態

当第２四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前期末に比べ、70 百万円減少し 38 億 65 百万円となりました。負債は、前期末に比べ、46 百万円増加し 14 億 71 百万円となりました。純資産は、新株予約権の行使による新株の発行により１億円増加したものの四半期純損失１億 52 百万円の計上及びその他有価証券評価差額金が 64 百万円減少したため、前期末に比べ、１億 17 百万円減少し 23 億 94 百万円となり、自己資本比率は 61.5%となりました。

（単位：百万円）

科　目	当中間期	前期
負債の部		
流動負債	**1,370**	**447**
支払手形及び買掛金	42	31
短期借入金	315	321
1年内返済予定の長期借入金	7	27
1年内償還予定の新株予約権付社債	880	－
その他	125	67
固定負債	**100**	**977**
新株予約権付社債	－	880
長期借入金	20	24
退職給付引当金	59	62
その他	20	10
負債合計	**1,471**	**1,424**
純資産の部		
株主資本	**2,495**	**2,548**
資本金	3,127	3,077
資本剰余金	1,626	1,576
利益剰余金	△ 2,248	△ 2,095
自己株式	△ 9	△ 9
評価・換算差額等	**△ 119**	**△ 54**
新株予約権	**5**	**5**
少数株主持分	**12**	**12**
純資産合計	**2,394**	**2,511**
負債純資産合計	**3,865**	**3,936**

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書　2010.4.1-2010.9.30

（単位：百万円）

科　目	当中間期	前中間期
売上高	824	1,741
売上原価	580	562
売上総利益	244	1,178
販売費及び一般管理費	484	562
営業利益（△損失）	△ 240	616
営業外収益	5	26
営業外費用	25	10
経常利益（△損失）	△ 260	631
特別利益	116	23
特別損失	5	41
税金等調整前四半期純利益（△損失）	△ 149	613
法人税、住民税及び事業税	1	1
法人税等調整額	0	△ 4
少数株主損益調整前四半期純利益（△損失）	△ 152	―
少数株主利益（△損失）	0	370
四半期純利益（△損失）	△ 152	245

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

◎連結経営成績

インベストメントバンキング事業において、本年度より開始した、上場企業に対する投資を展開いたしました。しかしながら、国内株式市場の中でも特に新興市場が４月までの上昇傾向をピークに５月のギリシャショック以降、株価が下落傾向を強めたことから、投資判断を慎重に行い新規投資を手控えました。その結果、上場企業向けエクイティ・ファイナンスの引受による投資の累計引受額は新株予約権の行使予定分を含め 34 億 54 百万円となりました。また、株式市場の低迷により投資回収も限定的なものにとどまっております。リスクマネジメント事業につきましては、資本提携先の日本興亜損害保険、朝日火災海上保険等と共同して保険代理店業務の拡大を図るとともに、クライアント企業へのリスク総合サービスへの取り組みを行い損害保険収入が増加いたしました。以上の結果、当第２四半期連結累計期間の連結業績は、売上高８億 24 百万円（前年同期比、52.6%減）、営業損失２億 40 百万円（前年同期は営業利益６億 16 百万円）、経常損失２億 60 百万円（前年同期は経常利益６億 31 百万円）、四半期純損失１億 52 百万円（前年同期は四半期純利益２億 45 百万円）となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書　2010.4.1-2010.9.30

（単位：百万円）

科　目	当中間期	前中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 276	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	14	36
財務活動によるキャッシュ・フロー	69	△ 54
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 15	△ 7
現金及び現金同等物の減少額	△ 207	△ 17
現金及び現金同等物の期首残高	840	295
現金及び現金同等物の四半期末残高	632	278

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

◎連結キャッシュフローの状況

当第２四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前期末と比べ、２億７百万円減少し６億 32 百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第２四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純損失１億 49 百万円の計上及び貸倒引当金の１億 16 百万円減少により、２億 76 百万円のキャッシュ・アウトフローとなりました。

〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉

投資活動によるキャッシュ・フローは、当第２四半期連結累計期間において 14 百万円のキャッシュ・インフローとなりました。その主な要因は、貸付金の回収が貸付けによる支出を上回ったためであります。

〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉

財務活動によるキャッシュ・フローは、当第２四半期連結累計期間において 69 百万円のキャッシュ・インフローとなりました。その主な要因は、新株予約権の行使による株式の発行による収入であります。

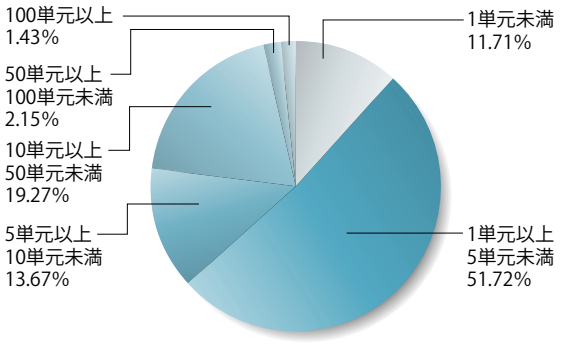
株式の状況　2010年9月30日現在

発行可能株式総数……86,000,000株
発行済株式の総数……22,082,428株
株主数……18,401名

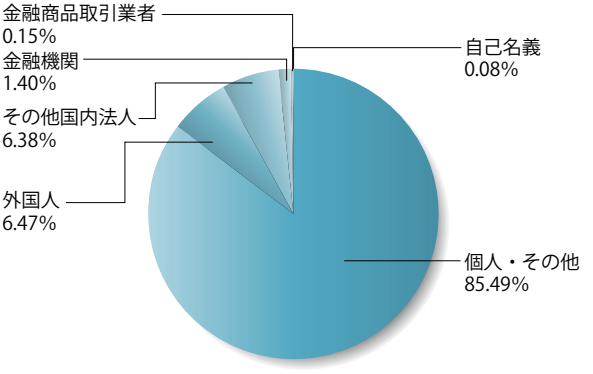
大株主　上位10位

株主名	所有株式数（百株）	持株比率（%）
エスアイエックス　エスアイエス　エルティーディー （常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行 決済事業部）	12,330	5.58
竹井　博康	8,753	3.96
エルエムアイ株式会社	6,151	2.79
山崎　光博	4,204	1.90
日本証券金融株式会社	3,107	1.41
株式会社 三博商会	2,741	1.24
木村　正明	2,500	1.13
利川　守信	1,798	0.81
吉澤　英和	1,714	0.78
斉藤　恒利	1,200	0.54

所有株式数別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況



会社概要　2010年9月30日現在

会社概要

商　　号	Oakキャピタル株式会社	市　　場	東証第二部（上場1949年）
創　　業	1868年	主幹事証券	大和証券キャピタル・マーケッツ
設　　立	1918年	会計監査人	監査法人 日本橋事務所
資 本 金	31億27百万円	取引銀行	三井住友銀行、みずほコーポレート銀行

役員

代表取締役会長 兼CEO	竹井　博康	
取締役	田中　克司	経営管理室長
取締役※1	尾関　友保	元 アクセンチュア(株) パートナー
取締役※1	宇田　好文	元(株)NTTドコモ 代表取締役副社長
常務執行役員	品田　耕一	管理本部長
執行役員	秋田　勉	経理財務部長
執行役員	河面　哲生	投資事業本部
執行役員	緒方　健介	投資事業本部
常勤監査役	髙橋　英也	
監査役※2	永野　義一	弁護士
監査役※2	坂井　眞	弁護士
監査役※2	廣瀬　元亮	
顧問	山田　晴信	元 HSBC グループ 香港上海銀行 在日副代表兼副 CEO
顧問	小田嶋　清治	税理士　元 仙台国税局長
顧問	Hong Liang Lu	元 UTStarcom, Inc. 取締役社長兼 CEO

※1. 会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
※2. 会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月に開催します。
基準日	定時株主総会については3月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当金の支払いを行うときは9月30日
公告の方法	電子公告とします。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社　証券代行部　電話 0120-78-2031（フリーダイヤル）
（電話照会先）	取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店並びに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

■住所変更、単元未満株式買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

■株主様のご住所・お名前に使用する文字に関してのご案内
株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構（ほふり）が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



Oakキャピタル株式会社　証券コード：3113

http://www.oakcapital.jp/

〒107-0052　東京都港区赤坂八丁目10番24号　住友不動産赤坂ビル
本　　社　TEL.03-5412-7474　FAX.03-5412-8282
投資事業本部　TEL.03-5412-7700　FAX.03-5412-8811